

美保基地における空中給油・輸送機(KC-46A)の配備に係る住民説明会(概要)

日時:令和3年11月18日(木)19:00~20:35 場所:境夢みなとターミナル

参加者:38人(境港市民35人、米子市民3人) 報道:6社

出席

中国四国防衛局 企画部長、企画部次長、基地対策室長、室長補佐、調達計画課長、
美保防衛事務所長

航空幕僚監部 事業計画第1課 美保基地 渉外室長
境港市 市長、副市長、建設部長、建設部次長、港湾空港対策室長

(主な意見・質疑)

問:空中給油・輸送機の配備は戦闘機能を持つものではないという見解で、「美保基地の性格や位置付けは変わらない」との説明だったが、今回の配備で補給基地の一端を担うことになるので性格は変わると考える。有事の際の基地の安全面をどう考えているか。

答:KC-46Aは、空中給油と合わせて輸送も担う機体。約100人位が乗れる席がある。基本的には作戦を支援する機能を持つ機種であり、C-2と同じ輸送機であるという観点からも美保基地の位置付けは変わるものではない。(防衛局)

問:基地内のタンクで保管される燃料は、常時どのくらいの量か。また最大に保管する場合との差があるのか。保管に伴う安全面において、外部からの侵入や火災に対する対策は、どういう形でとられているのか。

答:燃料タンクについては、KC-46Aの配備に伴い2基整備を進めている。これらは国内法・消防法に基づき設計し、所轄の消防に安全性の承認も得ている。外部からの侵入に対しては、基地の外柵にカメラを設置しているほか、定期的な巡回などで万全な安全対策を講じている。(防衛局)

答:燃料の量については、部隊能力等を示すことになるため、答えを差し控えたい。(航空幕僚監部)

問:KC-46Aを配備する目的に「我が国の防空等を総合的な態勢で行い得るよう」と書かれているが、この「等」は具体的に何か。

答:制空権に加えて、海も航空自衛隊が対応するため、海を含めた「等」である。(防衛局)

問:不具合は、改修されてから美保基地へ納入されるのが筋であるが、数年後に改修される時には新たな負担が発生するのでは。作ったところが負担するのが当然と思うがどうか。

答:北朝鮮が弾道ミサイルを打ったり、安全保障環境が切迫していると認識しており、不具合だとしても、安全性がとれて、対応がとれる、運用ができるという確認が取れているので、早く導入し我が国のために対応する必要があると考えている。(防衛局)

答:技術的課題は、米国で改修計画を作成中であり、費用負担についても今後米側と調整することになる。(航空幕僚監部)

問:騒音値について、ここまでなら許容するとか、配備に同意するとか、そういう基準値はあるのか。

答:許容できる騒音について、基準値といったものは、特にはないが、これまでのC-1の騒音に比べて小さいということ、現状では、C-2が飛んでいる状況であり、C-2と同等の騒音の程度であれば良いのではと考えている。(境港市)

問:鳥取県に言うべきかも知れないが、民間の旅客機の誘致、中国や台湾、韓国にどんどん来てほしいと言っているのに、安全保障・国防に関する装備には、これほど厳しく騒音について言うのは疑問がある。(デモフライトの)当日の朝いちばんの全日空機はボーイング767だった。余談ではあるが。質問としては、KC-46Aは陸上自衛隊のヘリコプターや、海上自衛隊の航空機にも給油するのか。

答:一義的には航空自衛隊の戦闘機、輸送機等に給油することを考えている。ただし、機能としては、今後ある可能性もあり、排除されるものではないが、基本は航空自衛隊の航空機に給油することを計画している。(航空幕僚監部)

問:住宅の上空で自衛隊機を飛ばさないでほしい。いつどこでどんな物が落ちてくるか分からない。2018年に青森でF16戦闘機が故障して燃料タンクを放置、下に落下させた事例があった。この給油機も、燃料タンクを放置するマニュアルがあるのか。

答:事実関係を言うと、2018年にタンクを落としたのは米アメリカ軍、米軍のF16であった。部品落下は誠に申し訳ないと思っている。ただ、それを踏まえ、航空自衛隊では、操縦者に厳正に資格管理を行い、飛行に十分な技量を有しているか確認している。また、定期的な検定の実施や、飛行する前、飛行した後にも点検、常日頃からの定期的な整備をしっかりと行い、飛行の安全にこれからも万全を期してまいりたい。(防衛局)

答:KC-46Aの燃料タンクは、別につけられているものではないので、タンクを投棄するという事はない。(航空幕僚監部)

問:この飛行機は、中東まで飛んで給油することが、専守防衛の自衛隊に必要なのか。近年、自衛隊機により市民生活を脅かす重大な事故が相次いでいる。この配備、飛行計画は絶対やめてほしい。市は、市民の命、生活、財産を守る役目。防衛予算の代償として、市民の命を軽んじることはやめてほしい。

答:太平洋が非常に広く、広大な空域を持っており、我が国の周辺空域で戦闘機と一体となった行動をやるので、基本的には中東へ飛んでいくとか、そこでの空中給油というのは考えていない。他方で、輸送機としての機能があるので、例えば国際緊急援助隊として、地震でパキスタンへ必要な資材を届けたように、支援をしなければならない場合は、空中給油・輸送機を使うことも考えられる。住宅の上を飛ばさないということは、意見として承る。(防衛局)

答:市に対する要望をいただいたが、平成29年2月に、当然、市民の安全を守るために、安全への十分な対策の確保をお願いして、配備に同意した経緯がある。(境港市)

問:基地の安全について、自衛隊として対策は徹底されているのか。

答:安全については、米軍の事例も注視しつつ、飛行前後の点検や整備を確実に実施しており、厳正な訓練計画と段階的に訓練を行うことで、予め定められた空域で訓練を行うことで、安全を期して、基地周辺の住民の安全を脅かすことがないように努めてまいりたい。(美保基地)

問:不具合について、具体的な対応・対策、或いは時期というものが明記されていないので、非常に気になる。具体的な時期や予定がすごく曖昧な表現をされている。

答:技術的課題への対応については、米側には様々な資料を要求し、米側も改修計画を策定中であり、具体的な日時、対策、完了時期を申し上げられないが、ご理解いただきたい。(美保基地)

答:ボーイング社と米空軍との間で、どういった改修をするのかを検討中。(航空幕僚監部)

問:軍備増強しなければ平和が保てない悲しい世界。空中給油機が配備されることによって戦闘機も増やすのか。また、戦闘機が美保基地へ配備されるのであれば、騒音の被害を心配する。かといって、自分の住む地域だけを見ていればそれで良いということではないが、日本とアメリカ、諸外国との関係も考慮したうえで、地域を見ることが、世界平和への小さな一歩につながると考える。

答:空中給油機を増やすことに伴って、戦闘機が増えるということではない。戦闘機については、戦闘機で必要な分、必要な機数を計画している。美保基地への戦闘機が飛来することは基本的にはない、という認識であり、訓練等についても、国内の訓練空域で、海上での空中給油訓練となっている。(航空幕僚監部)

問:南西地域や太平洋の防空であれば、鹿児島辺りが適していると考えますが、改めて、美保基地に配備を決めた理由をあらためて教えてほしい。

答:基本的に航空自衛隊すべての飛行場を対象に、必要な施設整備の地積や必要な空域等を総合的に検討と評価した。南西地域へも迅速に進出が可能であることから、総合的に判断し、美保が最適との結論に至った。(防衛局)

問:ある程度の防衛力は必要であり、国の防衛自体に反対しようとは考えていない。ただ、飛行機が飛ぶ頻度や騒音に住民は悩まされる。国の施策に対して、境港市への交付金等はどうのような状況か。

答:市民の安全を守ることが、まずは第一であるが、市の活性化のためにも、国からの交付金をできるだけいただきたいと考えている。(境港市)

問:いつから飛行の訓練が開始されるのか、放送なりで周知されるのか。また、夜間訓練の計画はあるのか。南海トラフの心配もあるなか、日本海側の美保基地を選ばれたのは懸命な判断。

答:現時点では、いつからというのは決まっていない。(美保基地)

答:KC-46Aの運用もこれからでありはっきりとは言えないが、これまでの航空自衛隊の訓練を考えると、夜間の訓練も必要になってくると思っている。(航空幕僚監部)

問:民間機についても安全面や騒音等を慎重に考えていただきたい。自衛隊機にこれほど慎重さを求めているので、民間にも同様の態勢が必要だと思う。

答:民間の航空機は、いろいろな所から来ていただき、市の発展のためにも重要なもの。当然、自衛隊・防衛省と同様に安全面には十分に配慮いただくことを強くお願いし、就航してもらっている。(境港市)

問:T-400 訓練部隊は、1日に何回も飛んでおり馴染んでいた。移転してしまい寂しい気がしている。当時、どのくらいの訓練回数であったか。

答:T-400については、1ヶ月あたり650回ぐらい飛んでいた。KC-46Aは納入されたばかりで検査、運用試験を経てからなので、具体的にどれくらい飛ぶかはこれから。同じ自衛隊の小牧基地のKC-767は、1ヶ月あたり100回ほど飛んでいる。基本的にT-400は若い隊員が教育できる飛行機で、飛んだり降りたり、飛んだり降りたり、という体制だった。KC-46Aは訓練空域の方へ飛行して訓練を行うので、実際的には数値は減るのではないかと考えている。(防衛局)

答:T-400については、浜松基地へ移転したが、今日も3機飛来したように、これ以降も美保基地へ来て訓練することはあるので、ご理解いただきたい。(美保基地)

問:基地の説明会は何回かあり、その都度、安心・安全と言われているが、何をもち安心・安全かということ。地元として心配なのは、何か事故があったり、中国とか北朝鮮とか、そういう問題を抱える日本である。この機体について機種の変更や機数の変更がある場合は、こういう説明会をもってもらいたい。

答:飛行機の機種については、安全保障環境の変化とか運用により、若干変動することはあるが、仮に大幅に変動するとか、機種をかえなきゃいけないとか、こういうことになった時には、地元自治体に速やかな情報提供をさせていただく。(住民説明会については)地元自治体の意向を踏まえながら、検討してまいりたい。安心・安全については、訓練や装備のチェックだとか、そういったことを日頃から確実にやることで皆さまに安心・安全というものを身をもって体験いただきたいと考えている。これからも基地・航空自衛隊としてきちんとやっていきたい。(防衛局)

以上